

授業科目 衣服と環境

【担当教員名】 石井照子	対象学年	1	対象学科	栄養
	開講時期	後期	必修・選択	選択
	単位数	1	時間数	15

【<概要>又は<一般目標：G I O>】
 <概略>身体は限りない発熱体である。その熱を蓄積することなく放熱し、人体は恒温を維持している。放熱と産熱との均衡を保つのは基本的には生理的調節によるが、人間が厳しい地球環境に適応することができたのは、被服や住居という殻を得たからである。
 被服環境が人体の一部として生理的な調節の補助手段として健康にたずさわると共に、被服の着装が人間の一面である感性の表現の役目もしている。被服環境は、被服素材、設計、製作、着装の技術や着装方法によって影響を受けるものである。人体-被服-環境の関係を、特に健康とのかかわりを中心に論ずる。

【<学習目標>又は<行動目標：S B O>】

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	衣服着用の起源・目的—なぜ人間は衣服を着るのだろうか		
2	温熱環境と人体生理—人間が恒温を維持するための仕組みについて 1) 体温調節のメカニズム (ビデオ) 2) 不感蒸泄、汗の役割、皮膚の働き等と人間の生理機能との関わりについて		
3	温熱環境と被服 I—衣服の快適性とは 衣服の役割について		
4	温熱環境と被服 II—被服の伝熱性について 1) 被服素材の種類・性質と扱い (ビデオ) 2) 被服を通しての熱と水分の移動性 3) 各種温熱環境に適した着衣及び着衣量		
5	人体生理と被服—皮膚温、衣服圧・拘束、脂肪厚と被服との関連について		
6	被服の安全性—特種環境の中で作業をする労働者の生命を保護・防衛する被服について考える。(ビデオ) 保護服・防護服の基本条件について		
7	高齢者・障害者の衣服 高齢者—生物学的側面からみた老化と衣服 障害者—障害の部位あるいは生活サイクルを考慮して 各々の環境に適するよう衣服の形態、種類、材質への配慮等 (ビデオ)		

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)	衣生活の科学	大野静枝・石井照子	健昂社	
参考書	快適な衣服を求めて 温熱生理学	外村S.M. 中山照雄	関西衣生活研究会 理工学社	
その他の資料	人間と気候 プリント等	佐藤方彦	中公新書	

【評価方法】 課題によるレポート2-3 定期試験 出席状況	【履修上の留意点】 1. テキストにより指示に従って、予習・復習をすること。 2. 遅刻・欠席は安易にしないように。 3. レポートなどの提出期限の厳守。
--	--

健康栄養学科 専門